感想に代へて[[1]](#footnote-1)

香山光郎

金兄

　お手紙と二度の催促電報共正に拜見致しました。おそれいります。大會から歸つて、滿華のお客様をお送りしまして直ぐ咸興へ旅行、十九日家に歸りましたら、三週間の疲労が出たのでせうか、発熱して寝込んで居りました。弱い身體の悲しみですね。

　今度の東亞文學者大會は豫想外の成功だつたと朝鮮の各方面でも喜んで下さいました。私個人としては誠に得るところ多い旅行でありました。平素お名前だけ聞いて尊敬してゐた文學者方と知合にもなつたし、伊勢、奈良、京都も一時的な旅ではあつたけれども、久米正雄、河上徹太郎兩氏の親切なお手引で大變勉強になりました。

　　　見るにつけまた見るにつけ日の本は

　　　　　　　　たぐひもあらぬうるはしの國

といふ感をいよいよ深く致しました。大東亞文化は、日本の再認識から始まらなければならないといふことを沁みじみ感じました。

　私は來春でも、機會さへあれば、京都地方へまゐりたいと思ひます。京都では淀野隆三氏にお逢ひすることが出來て、次回の京都の旅にはお世話を願はうかと思つてゐます。

　あなたと白南兄にお逢ひしたのも東京行の喜びの一つでありました。たゞ心配なのはお人よしの貴兄だけでは困る[、]先づ良い補助役を一人見付けて下さい。

　私に原稿をといふ御云附ではありますが、連載物を書いて居りますので、當分時間の餘裕も精力の餘裕もありませぬ。今度の旅の印象さへ纏める餘裕がありませぬ。

　最後に一つ、私は今度東京で野口米次郎氏の聖武天皇と正倉院といふ美しい本を頂いて來ました。これは奈良の古文化を美文と寫眞とで解説をした本で、詩人の筆ですから殊に、面白く讀まれました。

　御存じでもありませうが、朝鮮古蹟圖譜[[2]](#footnote-2)といふものがあります。朝鮮總督府で編纂發行したもので、朝鮮古文化の造物遺跡をそれぞれの專門家に委囑して、撮影解説したものです。是非あなたの編輯室に備へ附けるべきだと存じます。古文化の遺物から私たちは、私たちの先祖の精神を掘り出すことが出來ます。しかも古文化に於いて、内地も朝鮮も一體であるといふことがもつともはつきりと摑めることゝ思ひます。

1. 『朝鮮画報』1943年1月号。特集「大東亞文學者大會と朝鮮の作家たち」に収録。ほかに兪鎭午と芳村香道が書いている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 原文は「朝鮮古圖譜」と誤植されている。 [↑](#footnote-ref-2)